おおい自然園

No.119

コオイムシ

初夏の日差しが心地よい季節になると、水田に水が入ります。カエルやタニシなど、さまざまな生物が水田をにぎわす頃、体長15ミリほどのコオイムシが水田に現れます。

この虫は、水の中で生息する水生昆虫の仲間で、他の昆虫や巻貝を餌にする肉食の昆虫です。

県内では主に農薬の使用で数を減らしましたが、県西部では探せばまだ出会うことができます。

コオイムシには、名前の由来になった面白い生態があります。5月から6月にかけて、雌は雄を見つけると、その背中に卵を産み付けます。卵は雄の翅（はね）にしっかりとくっつき、卵から幼虫がふ化するまで取れません。卵がかえるまで、雄は卵が水中で窒息したり、カビが生えたりしないように、必死で子守りをします。

▲卵を背負うコオイムシの雄

神奈川県立生命の星・地球博物館学芸員　渡辺恭平